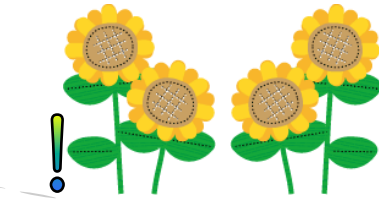


2017 夏が好き！本が好き！！



平成29年7月7日
秋草学園高等学校 図書館

さあ！今年の夏も先生方が、みなさんにたくさんのおすすめ本を紹介してくださいました。紹介文を読んでいると、どれもこれも心惹かれる内容で、まずはどれから読もうかなと悩んでしまいますね。1冊をじっくり読んでみるもよし、何冊も欲張って読んでみるもよし、先生方のおすすめ本を片手に夏の読書を満喫してください。そして、読み終わった際には、その本を紹介してくださいました先生と楽しく語らいのひとときを過ごしてほしいです。

紹介していただいた本は現在、図書館にて展示中です。夏の長期貸出が始まっていますので、どんどん借りていってください。貸出冊数は5冊、返却日は9月4日（月）です。長期貸出を有効に活用して、いつも以上に読書を楽しんでください。

小久保校長先生のおすすめは…

①159-シ 『20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義』 ティナ・シーリグ 著 阪急コミュニケーションズ

この本には企業家精神とイノベーションを学ぶことが書かれています。いくつになっても人生は変えられる。現状に行き詰った時、読んでほしい本です。

著者のティナ・シーリグ女史はスタンフォード大学で教鞭をとっており、彼女のコースは企業家育成コースでトップクラスの評価を得ているのだそうです。10章で構成されている中で印象に残った内容をご紹介します。

第5章シリコンバレーの強さの秘密(早く何度でも失敗せよ) …「失敗のレジュメ」を書く。その経験から何を学んだのかが重要であるという事です。挫折すれば学習をする、同じ過ちを繰り返さない可能性が高い。失敗を経験し、成功も経験する中でこそしっかりと深く学ぶことができる。

第8章矢の周りに的を描く(自己流から抜け出そう)…あなたのために何かをしてくれた人に感謝の気持ちを示すかどうかであなたの印象は変わるということです。あなたのために時間をさいてくれたことは、その人は何かを犠牲にしている。感謝の気持ちを大切にすることは、今後、皆さんにとって障害をさける最善な方法となる…それは著者が母から学んだことである。他の章においても、発想を転換させる言葉に出会うと思います。

②B121-ミ 『人生論ノート』 三木清 著 角川書店

著者の三木清は、在野の哲学者・社会評論家として活躍した人です。「人生論ノート」は「怒り」「孤独」「嫉妬」「成功」など私たちがつきあたる問題に哲学的な視点から書かれたエッセイです。著者はこの本で「幸福とは何か」を述べています。今は、幸福を論じることに何の問題もありませんが、この本が発表された1937年、つまり30年代は戦争の影が日に日に濃くなって、個人が幸福を追求するということをオープンに語れない時代でした。言葉・表現が難解であるのは、こういった時代背景もあるということを理解してほしいと思います。経済的な豊かさが追及される今だからこそ、この本を通して、「幸福とは何か」「孤独とは何か」「死とは何か」といった普遍的なテーマをもう一度見つめ直すきっかけになればと思います。また、今はわからなくても、何十年後、色々と人生経験をした後、またこの本を手にとって読み、あの時はわからなかったけれど、こういうことだったのだとわかるかもしれません。内容は難解ですが、是非、チャレンジしてください。

③914-ワ 『置かれた場所で咲きなさい』 渡辺和子 著 幻冬舎

著者は修道者であり、ノートルダム清心学園の理事長だった方です。昨年2016年12月30日にお亡くなりになりました。父親は、陸軍教育總監を務めた渡辺錠太郎氏。1936年2月26日、陸軍将校の一部らの起こしたクーデター「2・26事件」で、父親が反乱軍の将校らに殺される場面を9歳の時に自宅で目撃しました。このことは、第4章「愛するということ」に書かれています。「9年間に一生分の愛を注いでくれた父」の中で心に残った一文を紹介します。

寡黙な人でした。…ふだんは黙っている父が、私たち子どもに「お母様だって、おいしいものが嫌いじゃないんだよ」と言った、…当たり前のように食べている私たちへの注意であり、日夜、子どものために尽くしている母へのいたわり言葉だったのだと思います。

この本は、珠玉の言葉で溢れています。是非、読んでみてください。

あいさつは「あなたは大切な人」と伝える最良の手段。著書より

丸山教頭先生のおすすめは…

418-カ 『脳の強化書』 加藤俊徳 著 あさ出版

最近の脳科学の研究は目覚ましいものがあり、また大きな成果を上げている。今、脳トレーニングが大人気である。著者も脳トレの書籍をたくさん発行している。その発行の根拠が1万人以上の脳画像を分析した結果だ。さらに、分析の結果、脳にも住所＝脳番地があることを突き止め、思考系・感情系など8つの脳番地があるという。それぞれの脳番地の鍛え方が違うという。例えば、英語力をつけるのに、普段使っている日本語を注意深く聴くだけでOKだという。とても驚きです。皆さんもそう思うでしょ。思った人は是非本書を読んでください。

浅見先生のおすすめは…

049-オ 『おかんメール Final』 「おかんメール」制作委員会 || 編 扶桑社
毎日使っているLINEのメール。
一文字変換ミスしただけで、誤解を招くことになります。注意、注意。

安達大樹先生のおすすめは…

914-バ 『爆笑問題の日本史原論』 爆笑問題 || 著 幻冬舎
勉強する、何かを覚えるってけっこう苦痛…、でも笑いながら勉強できるとしたら…？
今やレギュラーを何本も持つ実力派ベテラン漫才コンビの爆笑問題が、日本の歴史を「漫才」で、おもしろおかしく解説します！ついつい笑ってしまうので、何度も読んでしまい、気がつく
と歴史が得意になっていた！？という事が昔ありました。何度読み直してもおもしろく、歴史に
ついて詳しく説明されているので、疲れた時に読むとリフレッシュしながら歴史が覚えられる
かも…？

伊久美先生のおすすめは…

913.6-イ 『ノボさん 小説正岡子規と夏目漱石』 伊集院 静 || 著 講談社
近代俳句の創始者・正岡子規と近代文学の大家・夏目漱石。それぞれの活躍は知っていても、
二人の交際についてはよく知らないという人もいるのではないのでしょうか。
この本では、二人の出会いから死別までを軸に「ノボさん」こと子規の人生が描かれています。
文学者として大成する前の「ノボさん」や「金之助」に触れ、二人の軌跡を辿ってみませんか。
二人のやりとりを直接読みたい！という人には和田茂樹・編『漱石・子規 往復書簡集』(岩
波書店)をおすすめします。

稲本先生のおすすめは…

①914.6-サ 『九十歳。何がめでたい』 佐藤 愛子 || 著 小学館
タイトルにひとめぼれして読んだ本。読んだ後は超スッキリ！！
佐藤愛子流の切り口で心のモヤモヤをバッサリ切ってくれます。

②488-ナ 『にっぽんスズメしぐさ』 中野 さとる || 著 カンゼン

疲れた心をいやしたい人に今おすすめなのはこの本。
とにかく、いちいちかわいらしい！！身近にいるスズメも捨てたもんじゃないと思ってしま
いました。



今井先生のおすすめは…

481-ワ 『ペンギンが教えてくれた物理のはなし』 渡辺 佑基 || 著 河出書房新社
アホウドリはエネルギー保存の法則を活用して地球を46日間で一周する。
ウェデエルアザラシは一時間も呼吸を止めていられる。
動物たちのわからなかった生態が「バイオロギング」という手法で明らかにされていく。
多くのデータ解析に大活躍しているのが物理学と数学。理系離れが進んでいる今日。
ぜひ皆さんに読んで欲しい一冊です。

大久保先生のおすすめは…

728-ア 『にんげんだもの』 相田 みつを || 著 文化出版局
短い文の中に大変に深くそして心の中に入り込んでくる内容ばかりです。
悩んでいる時に読んでほしい一冊です。

太田興一先生のおすすめは…

420-サ 『物理通になる本』 佐川 峻 || 著 オーエス出版
私の周辺では、物理学の視点や考え方で社会や人生を語る人たちのことを「ぶったく」と呼ぶ。
漢字で書くと「物宅」、物理お宅の略である。特許を申請する仕事に就いている友人の名刺には、
ぶったくを意味する造語「Physicist (フィジシスト)」と書かれている。
物理をこよなく愛する人たちは、そのさまざまな理論や法則により数学的に表現される自然の
美しさに心を奪われる。
さて、この本の著者はあえて数式を使わないで、「わかる」という成功体験を積むことに主眼
を置き、物理の通(つう)を気取れるよう導いてくれる。数学抜きのアプローチに何を感じるの
か。読み終えたら皆さんに感想を聞かせていただきたい一冊だ。ぜひご覧あれ。

鹿島先生のおすすめは…

290-タ 『365日世界一周絶景の旅』 TABIPPO || 編 いろは出版
世界には日本では見られない景色がたくさんあります。本を通して視野を広げましょう！

上村先生のおすすめは…

B913.6-ナ 『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 || 著 新潮社
悲しい悲しい、しかし、考えさせられるので、たいへん良いですね。おばあちゃん好き。



迫先生のおすすめは…

B383-イ 『世界の食べもの 食の文化地理』 石毛 直道 || 著 講談社

「夏こそ辛いものを」といった話は、よく聞く。何となく分かるものの、甘党の私は「5辛」とか「10倍」とか「暴君～」といったもので身心を追い込む人々にはあまり共感できない。そもそも唐辛子が辛いのは、辛みに弱い哺乳類を遠ざけ、辛みを感じない鳥類に種子を運ばせるためらしい。そういえば知人の激辛マニアはどこか鳥じみた顔をしている…。

さてこの『世界の食べ物』はアジア、オセアニア、北部アフリカに重点を置きながら各国、各民族の日頃食べているものや調理法について詳しく紹介している。簡潔ながら魅力的にまとめられていて、読後は各国の調味料を試したくなること請け合い。この本によれば唐辛子を常食する地域というのは予想以上に広く、おおむね世界全体にわたっていて、チュニジアならトマトペーストに混ぜてジャムのようにパンにつけるといふ。みんな大好き唐辛子。人類というのは、つくづく変わった動物だと思ふ。また著者の石毛氏は日本食とその歴史についても大変造詣が深く、随所で国内外の比較もあって興味深い(例えば食事を「主食」と「おかず」に分けて考えるのは実は一部の地域だけ、など)。

「エスニック」という言葉では一括りにできない食の世界を手軽にのぞくには、うってつけの一冊。

鈴木信滉先生のおすすめ本は…

913.6-フ 『さんぽみち ほのぼのログ another story』 藤谷 燈子 || 著 角川書店

恋人を大切にしたいと思う気持ちはあっても、その方法は人それぞれだし、男性・女性でも違うと思う。どうすれば相手にわかってもらえるか、必死に考えて伝える。それでもきちんと伝わらないことがある。名前も住んでいる場所も年齢も違う4組の男女が繰り広げるそれぞれの「しあわせ」にまつわる物語。「しあわせ」は実は自分のすぐそばにある。そのことに気づいてくれるといいんだけど…。

関口先生のおすすめは…

①B913.6-カ 『ハッピー☆アイスクリーム』 加藤 千恵 || 著 集英社

この本は、青春短編小説5編と短歌集の2つの部分で構成されています。短歌集の部分は、著者の加藤千恵さんがみなさんと同じ高校生の時に発表したものです。読んでみた人はぜひ自分の今の気持ちにぴったりの短歌を1つ選んでみてください。

加藤千恵さんの作品は短編が多く読みやすいので、他の作品も読んでみてください。『いつか終わる曲』は様々な実在する曲を題材にしているので特に読みやすいかもしれません。

②B913.6-イ 『北斗—ある殺人者の回心—』 石田 衣良 || 著 集英社

端爪北斗という人物の半生を綴った長編小説で、内容的にも物理的にも正直重いです。残酷な描写も出てくるので、読み進めるのがつらい部分もあると思います。

しかしながら、北斗の心の揺れ動きや自分に向き合い考える過程に様々なことを感じることができると思います。中村文則さんの『何もかも憂鬱な夜に』(集英社)も合わせてオススメします。

石田衣良さんの作品は全体的にライトな文体のものが多いです。様々なジャンルを扱っているので、興味のあるジャンルに関する作品を探してみてください。

高橋貴与人先生のおすすめ本は…

188-マ 『くまのプーさん 心がスッキリする幸せのヒント』 柘野 俊明 || 監修

KADOKAWA

「禅」の言葉から学ぶ、生きるヒント本です。「禅語」は、お釈迦さまの教えを受け止めた、ひとつの表現です。禅僧たちが厳しい修行に命がけで打ち込み、その体験から会得した自由闊達な心の状態、会得した境地そのものが「禅語」として表れています。悩んだり、落ち込んだり、将来に不安を抱いた時、この本を開いてみてください。

遠山先生のおすすめは…

100-ハ 『高校生のための哲学入門』 長谷川 宏 || 著 筑摩書房

西洋も日本も「近代」を通過することにより自分で自分の生き方を決められる社会になった。しかし「個人」は一人では生きられない。他者との関係の中で自分の歩む道を決めていくにはどうしたらよいか、また「老い」「死」「宗教」とどのように向き合っていくべきか、等について考える、高校生のための哲学入門書。自分の気になった所だけ読んでみてもおもしろいと思います。

長野先生のおすすめは…

913.6-ア 『星に願いを、そして手を。』 青羽 悠 || 著 集英社

第29回小説すばる新人賞を受賞した作品。

作者 青羽悠は16歳。この若さでここまで書くか、と思わせる内容です。どんな話かは、手に取ってからの楽しみ。



中村先生のおすすめは…

①B933-ク 『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティー 著 早川書房
 (原題: And Then There Were None) 図書館に置いてある本です。1939年に刊行されたアガサ・クリスティーの長編推理小説。日本語初訳は『死人島』(雑誌『スタア』連載、清水俊二訳、1939年)でした。

この夏、暑さを感じたならこの一冊。強烈なサスペンスです。その昔、ラジオの朗読から作者を知り、手に取った一冊。当時少年だった私はふるえました。

②379-タ 『「メシが食える大人」に育つ子どもの習慣』 高濱正伸 著
 KADOKAWA

2年生のAL型授業の中では、皆さんに伝えた「メシが食える大人」に関する本です。特に将来先生になろうと考えている皆さんは読んでみましょう。さらに言うと、幼保コースの皆さんは読んだ方がよい。そしてひるがえって今の自分を考える。

行間には今の自分の高校生活をどう過ごすかが書いてあります。マンガで描かれている部分もあるので、読みやすい。

内容については下記にいくつか記します。

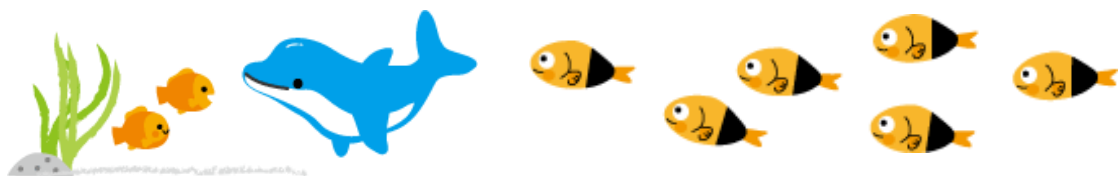
- 1 「すぐに折れない心」をつくる習慣。
- 2 「面白がって考える頭」をつくる習慣。
- 3 「周りの人とつながる感覚」をつくる習慣。
- 4 「今すぐ行動したくなる体」をつくる習慣。
- 5 「人生を思いっきり楽しむ力」をつける習慣。

原口先生のおすすめは…

726-カ 『SNOOPYと学ぶアメリカ文化』 加藤 恭子 著 ポプラ社

スヌーピーに代表される登場人物で描かれる漫画『Peanuts』(726-シ『A PEANUTS BOOK featuring SNOOPY』 チャールズ M. シュルツ 著 角川書店) アメーバのようにアメリカ全土へ浸透したこの漫画から見えてくるアメリカ特有の文化を、イラストを交えてわかりやすく解説してくれています。

一人の日本人として異文化と向き合うとき、将来皆さんがどのような壁にぶつかり、いかに日本という国を再認識するのか。そのような点にも気づかせてくれる作品だと思います。



堀内先生のおすすめは…

304-ワ 『日本の真実 50問 50答 わかりやすい保守のドリル』
 和田 政宗 著 青林堂

現在、日本が抱えている問題をわかりやすく解説しています。
 疑問点解決などの一助となれば幸いです。

本多先生のおすすめは…

913.6-ヒ 『フォルトゥナの瞳』 百田 尚樹 著 新潮社

他人の運命(寿命)を知る能力をもつ主人公が何を思い、どのような行動をするのか。「フォルトゥナ」とはどういう意味なのか、最後の最後にどういう展開になるのか。作者は、「あなたの運命のかえる」と書いています。

松永先生のおすすめは…

289.1-オ 『だから、あなたも生きぬいて』 大平 光代 著 講談社

真野先生のおすすめは…

B913.6-ダ 『ヴィヨンの妻』より「トカトントン」 太宰 治 著 新潮社

終戦後の日本のお話です。「トカトントン」とどこからか聞こえてくる戦争の名残とも言える音との葛藤。虚無感からの脱却。「青春は叡智より勇気を必要とする!!」

三ツ木先生のおすすめは…

913.6-ミ 『マチネの終わりに』 平野 啓一郎 著 毎日新聞出版

「こんなふうに人を愛せたら、そう思わずにはいられなかった。五感すべてを使って、噛みしめるように読んだ。この物語の中に浸っていたい。こんな恋愛小説ははじめて」

女優石田ゆり子がこんな感想を書いている。この感想を読んで、この本を読みたくなった。

宮本先生のおすすめは…

913.6-カ 『コーヒーが冷めないうちに』 川口 俊和 著 サンマーク出版

過去に戻れるという喫茶店を舞台に、4人の女性がそれぞれの想いがあって過去の会いたい人に会いに行くという物語です。

タイムスリップができて、厳しいルールがあります。過去に戻っても、現在起こっている事実は変えられないし、滞在できる時間も、タイトルの通り、コーヒーが冷めないうちだけであつたり… ちょっと切なく、でも、ほっとする素敵な作品です。

結城先生のおすすめは…

①913.6-タ 『あん』 ドリアン 助川 || 著 ポプラ社

『あん』ドリアン助川。字面からして物凄いインパクトである。どんなふざけた本だ、と思って読み始めた。何のことはない、「あん」とはつまり「^{あん}飴」のこと。これは「あんこ」の物語である。

無気力な中年男・千太郎が雇われ店長として切り盛りするどら焼き屋「どら春」に、アルバイト希望の老婆・徳江(76)がやって来る。相手にしなかった千太郎だったが、徳江は時給200円でいいから雇ってくれと迫るし、その上、なぜか絶品の「あんこ」の作り方を知っていた。レシピ本並みに詳しく描写されるほっこりと甘い「あん」の作り方。読めば皆さんもさぞ美味なる「あん」が掬えられるだろう。そして絶対にどら焼きが食べたくなくなるはず。そういう本だ。…と言いたいところだったが、物語は予想外の展開に。重く、鋭いものが胸に突き刺さる。読後には淡い余韻が消えない。はらはら舞いしきる桜の花びらを見送るようだ。

ひとつ言えるのは、この本は、皆さんに読んでもらって初めて完結する、ということ。皆さんは主人公たちと共に、徳江の伝えたかったことを「知る」はずだ。それがどんなに素晴らしいことか、この意味を読んで確かめてほしい。

②B913.6 『深い河[ディープ・リバー]』 遠藤 周作 || 著 講談社

宇多田ヒカルは、この本を読んで「DEEP RIVER」という曲を書いた。

ある日、妻が死ぬ。夫の磯辺は突然の事実を受け止めきれない。妻は言った、「わたくしは生まれ変わるから、探して、見つけ出して」。そして彼はインドへ旅立つ。彼だけでなく、ツアーに参加する四人の人物は、それぞれが何かを「探す」ため遂にインド、ガンジス河に辿り着く。

例えば、お腹が痛いとき、試合で負けそうな時、神様、と祈ることがある。僕は所謂「神様」を信じるタイプではないが、ふとそういうものにすがりたくなる。都合のいい奴だ。しかし、そういうことは誰しもにあるのではないか。

では、神様(本書の中では「たまねぎ」と表現される)とは何だろうか。この問いは重い。物語の中で「たまねぎ」は、はははと笑う九官鳥であり、馬面の外国人青年であり、薄汚れた冴えない男、として描かれる。「深い河」には、あるひとつの「答え」が示されている。

ラスト、磯辺は妻を見つけることができるのだろうか？主人公たちの結末は？

その終わりは、あまりにも呆気ない。唐突に物語は幕を閉じる。それは私たちのまだ続く人生に似ている。



湯本先生のおすすめは…

①B913.6-オ 『僕たちの戦争』 荻原 浩 || 著 双葉社

「戦争」の重さ、また教訓めいたものを感じさせる話でもなく、タイムスリップと19歳の若者の恋愛を描いたサラリと読める小説です。ただ、ところどころで現代の私達のあり方を考えさせられます。そしてラスト…この続きがとても気になります。

②B913.6-オ 『明日の記憶』 荻原 浩 || 著 光文社

若年性アルツハイマーの話。誰にとっても他人事ではありません。自分や親しい人がこの状況に陥ったら、その哀しさに耐えられるのか…深く考えさせられる一冊です。

鈴木司書のおすすめは…

159-モ 『I Love You の訳し方』 望月 竜馬 || 著 雷鳥社

夏目漱石は英語の教師をしていた時、生徒が「I love you」を「我君ヲ愛ス」と訳すと、日本人がそんな台詞を口にするものか、「月が綺麗ですね」とでも訳しておけと言ったとか。あれ？もしかして私、何か気づかないで人生を過ごしてきたかも。

それはさておき、この本には小説や詩、手紙の中から「I love you」の一文をさまざまに表現した文例とコメント、その作者の紹介が載っています。

「話したいことよりも何よりもただ逢うために逢いたい」 竹久夢二 || 著 『竹久夢二、恋の言葉』(河出書房新社)

「残念だわ。こんな素敵な夜に眠ってしまうなんて」 小川洋子 || 著 『六角形の小部屋』(新潮社)

あなたの気に入る「I love you」もきっとあります。この先、気づかないで後悔しないよう、ぜひこの本を読んでおきましょう。

今井司書のおすすめは…

913.6-モ 『出会いなおし』 森 絵都 || 著 文藝春秋

『出会いなおし』には、「人生の特別な瞬間」をキーワードに6つの短編が収められています。

私は『カブとセロリの塩昆布サラダ』で主婦の孤独な闘いぶりに「お惣菜ひとつでこんなにも熱いドラマが生まれるとは！」と衝撃を受け、『青空』でベニヤ板が吹っ飛んでくる一大事によぎった走馬灯に「そんな場合じゃないのに、やたらほのぼのとするぞ！」と戸惑いながらも、母性の炸裂に涙しました。

高校生の時に『カラフル』を読んで感じた「森絵都って、おもしろい！！」というワクワクを大人になった私にも変わらず与えてくれるお気に入りの作家さん。みなさんも主人公たちの「特別な瞬間」に触れ、忙しく笑って泣いて、読んだ後には軽やかな心になってください。